

# 本音のコラム



萩生田光一文科大臣と日本会議の関係は深い。日本会議国会議員懇談会事務局長だった二〇〇七年、会議設立十周年への挨拶文で「『行き過ぎたジェンダーフリー教育、過激な性教育』対策では日本会議の識者の先生方の後押しもいただき…シエンダーの暴走を食い止め」などと述べていた。

同じころ萩生田氏は「日本の前途と歴史教育を考える議員の会」の沖縄戦検証小委員長として、沖縄戦での「集団自決に対する軍の命令・強制を否定するための」検証もしていた。一三年には、自民党「教科書検定の在り方特別部会」の主宰として、教科書会社の社

## 萩生田氏と日本会議

前川喜平

長や編集者を呼び出し、歴史教科書の記述に注文をつけたこともある。

日本会議は「皇室と国民の強い絆」や「皇室を中心に、同じ歴史・文化、伝統を共有しているという歴史認識」を強調し、「行き過ぎた権利偏重の教育、わが国の歴史を悪しざまに断罪する自虐的な歴史教育、ジェンダーフリー教育」を非難して

「誇りあるわが国の歴史、伝統、文化を伝える歴史教育」「日本的徳性を取りもどす感性教育」「国を愛し、公共につくす精神の育成」を主張する。個人の尊厳、両性の平等、学問の自由、軍国主義への反省といった日本国憲法の精神はどこにもない。萩生田大臣は、日本の教育をいよいよ日本会議の求める方向へと歪めていくだろう。(現代教育行政研究会代表)

2019.10.6

# 本音のコラム



萩生田光一文科大臣は議員会館の事務所に教育勅語の掛け軸を掛けていた。就任後の記者会見では「教育勅語は日本国憲法及び教育基本法の制定をもって法制上の効力は喪失した」としつつ「その内容について政府としてコメントするのは差し控える」と述べた。

勅語は「天皇の言葉」のことだから、もともと「法制上の効力」はない。一九四八年に衆参両院はそれぞれ教育勅語の排除と失効確認を決議したが、これらは教育勅語の法制上の効力ではなく、その教育理念を否定したのだ。衆議院は「主権在君」「神話的国体観」に基づくとして「そ

## 萩生田氏と教育勅語

前川喜平

の指導原理的性格を認めない」と宣言。参議院は「わが国家及びわが民族を中心とする教育の誤りを徹底的に払拭」した教育基本法により失効したと決議した。

萩生田氏は「政府」として教育勅語の教育理念を否定しなかっただけでなく、「個人」としては「親孝行」などが「日々の暮らしの中で参考になる」と肯定的な評価をした。教育勅語には「父母二孝二」や「夫婦相和シ」など一見普遍的な徳目が書かれているが、それらはすべて「皇祖皇宗」即ち「天皇の先祖」が定めた道徳であり、「以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ」即ち「永遠の皇室の運命を支えること」を究極の目的とする。どこがどう「参考になる」というのだ？(現代教育行政研究会代表)

萩生田氏は「政府」として教育勅語の教育理念を否定しなかっただけでなく、「個人」としては「親孝行」などが「日々の暮らしの中で参考になる」と肯定的な評価をした。教育勅語には「父母二孝二」や「夫婦相和シ」など一見普遍的な徳目が書かれているが、それらはすべて「皇祖皇宗」即ち「天皇の先祖」が定めた道徳であり、「以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ」即ち「永遠の皇室の運命を支えること」を究極の目的とする。どこがどう「参考になる」というのだ？(現代教育行政研究会代表)

2019.9.22